

かずさの博物誌

スズガモ

～壮大で見事な舞い～

文・写真／成田篤彦

2016.12.20

富津の海岸沿いの人工池、スズガモがびっしり水面を覆っていました。数は一万をはるかに超えています。

彼らは幅数メートルの帯のようになって、集団で川が流れるように右手にゆったりと泳いでいき、岸辺に近づくとき左に向きを変えて泳いでいました。とても壮観な眺めです。

彼らは昼間、この人工池で休息しているのです。この池は風も波もさえぎられています。また、船の往来もありません。そのため、彼らの絶好の休息場所なのでしょう。

午後三時過ぎると約百羽の群れで、次から次へと東京湾へ飛び立っていきます。

彼らは、夕方から海へ貝などのえさを採りに行くのです。群れで海へ連続して飛び立つ姿は、雄大でも心が引き付けられます。

また、盤洲干潟では秋から冬に毎年一

万羽をこえるスズガモの大群が、沖合二キロにわたって帯状に長々と浮かんでいます。四年前の秋、小船がスズガモの群れのそばを通りました。その時でした。

スズガモが、水面をバタバタと蹴って次から次へと飛び上がりました。

飛び上がったスズガモの大群は、煙が上がっているように見えなくなったり、細くなったりして、南へ移動していきました。

まるで、竜が空を飛んでいるように見えました。壮大で見事な舞いでした。そして、再び、海上に降りました。

河口にはスズガモのオスとメスが群れから離れてしばしばやってきます。そして、勢いをつけて、潜っていきます。口に何かくわえて浮き上がります。カニです。カニの脚の色、大きさからアシハラガニではないかと思われました。

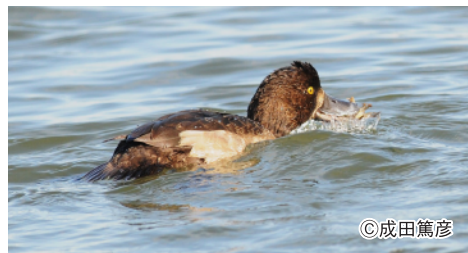


▲飛ぶスズガモの群れ＝2006年1月12日 富津市

▼舞い上がるスズガモの大群
＝2012年11月12日 木更津市



©成田篤彦



▲カニを捕らえたスズガモ
＝2012年12月5日 木更津市

©成田篤彦

それにも、上総の海は、冬の間に、一万羽のスズガモを養えるほど、カニが豊富だと言えます。この上総の海の豊かさを大切にしたいのです。また、雪を頂く富士山を背景に上総の東京湾に浮かぶスズガモの群れを見に行つてはいかがでしょうか？

memo

スズガモ

カモ目カモ科

全長四十〜五十センチ。ユーラシアやアメリカ大陸の寒帯の湖や河川の草地で初夏に繁殖。冬期に南にわたる。日本には主に冬鳥として全国に飛来し、大河の河口、入り江に好んですむ。頑丈なくちばしで海底の貝やカニなどを食べる。貝は丸舂みにして砂のう(鳥の胃)で砕く。羽音が鈴の音に似ているのが名前の由来。



©成田篤彦



©成田篤彦

▲スズガモの群れⅡ二〇〇六年
一月十二日 富津市



©成田篤彦

▶スズガモのオスとメスⅡ
二〇〇六年一月十二日
富津市